



施肥

○過繁茂、倒伏を避けるため、品種ごとの施肥基準に従い、施肥をしましょう
 ○穂肥の適期は出穂の18日～10日（幼穂長1cm～8cm）10aあたり窒素量で3kgを目安に施用しましょう

コシヒカリ					
土壌	窒素		リン酸		加里
	基肥	穂肥	基肥	基肥	穂肥
砂質	3~4	3~4	7~9	8	3
壤質	2~3	3			
粘質	2~3	3			

ふさおとめ					
土壌	窒素		リン酸		加里
	基肥	穂肥	基肥	基肥	穂肥
砂質	4~5	3	7~9	8	3
壤質	3~4	3			
粘質	3	3			

ふさこがね					
土壌	窒素		リン酸		加里
	基肥	穂肥	基肥	基肥	穂肥
砂質	5~6	3~4	7~9	8	3
壤質	4~5	3			
粘質	4	3			

育苗・移植

種子消毒：ばか苗病やその他病害対策のために、種子消毒は用法・用量を守り確実に行う
 消毒液の温度は10～15℃とし、消毒液の使いまわしはしない
 苗立枯病等の防除のため、種子消毒、育苗用土等を行います
 栽植密度：55～60株/坪（株間18～20cm）とし、疎植にしない

中干し

○中干しを確実に実施することで、過繁茂を防ぎ、根張りをよくする効果があります
 ○土壌水分にムラが生じやすい場合は「溝切り」を行うことでムラが解消でき中干し効果が高まります

品種別の中干し開始目標茎数

品種	播付時期	砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/m ² (18本/株)	310本/m ² (17本/株)	300本/m ² (16本/株)
	5月1日			

収穫・乾燥・調製

○出穂期から収穫適期までの日数の目安は「ふさおとめ」で33日、「ふさこがね」で37日、「コシヒカリ」で38日
 ○高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割米を発生させ、品質・食味を低下させます
 乾燥は平均毎時乾減率0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は14.5～15.0%とします

病虫害防除

○薬剤の使用の際は、収穫時期を起点とし、使用期限の「収穫〇日前」を守って下さい
 ○いもち病、紋枯病、カメムシの散布適期は出穂期±7日以内
 ○予察情報と発生状況に注意し、収量や品質の低下や、周辺圃場に影響を及ぼす危険が予想されるため適期の薬剤防除を行きましょう

環境にやさしい栽培技術（品種ごとに時期を分けて散布）

★デジタル生育予測判定技術（移植日、品種情報、気象メッシュ）による適期散布の実施
 →適期散布による化学農薬の使用量低減（散布回数1回に削減）

省力化栽培技術

★ドローンによる航空防除により、作業人員の削減
 ★ドローンの飛行ログにより、散布実績がデータ化できる



いもち病の病斑 紋枯病 クモヘリカメムシ ホソハリカメムシ イネカメムシ